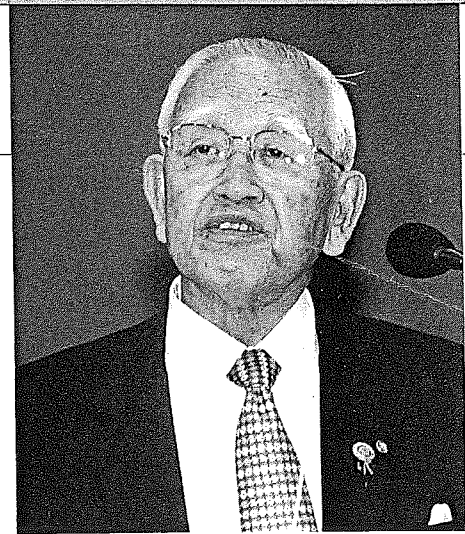


## セミナーⅡ

元RI理事・PG 今井 鎮雄



ただ今、丸山会長代理のお話のようにラビッツア会長は、今ロータリーは危機に瀕している、それはほんとにロータリアンがロータリアンでないからだ、70パーセントの人はロータリーに来て、一緒にご飯を食べる会員かもしれないけども、ロータリアンになってないよ。どうぞ、あなたがたが持っている、その大事な資質を100パーセント発揮するように、やってほしい—こういうことを言われたということでもあります。

同時に、ラビッツア会長はもう一つ、こう言われています。世界が新しく変わってくるということにチャレンジしよう。同じことをじっと待ってるのではない。それは、95年前に出来たものを、新しい時代の中にどういうふうに働かせるかということが、今の21世紀を迎えるのに大事なんじゃないか。Chance for Change, 変化のための今がチャンスである、と。

ロータリーは、職業奉仕ということを中心にしながら、一つの道徳的な運動なんだということを、私たちは、もう一度しっかり覚えなくてはならないのであります。しかし、その道徳的な運動というのが、21世紀には、いろんな形で社会が変わってきます。

まず第1に、21世紀といっても、今から10年後、今から20年後のこと。目の前にあるわけです。—昨年日本の出生率は1.38人になっている。普通、ひとつの社会がずうっとうまくエネルギーを、活力を持っていくためには、2.08人ぐらいを生まないと、うまくいかないとされています。ある人がこういう計算をしました。2007年に、日本の人口は一番ピークになり、その後日本の人口は減っていきまますから、500年後には今の半分になる。さらに千年先には、もっと減ってその時の日本の人口は、130人になるのです。これはもちろん数字の上でのこと、これほど現在の出生率

は低い。小児科のお医者さんも、患者さんが来なくなったなど思ってるかもしれません。そのように、教育や医療や乳幼児を対象とするような、サービス事業というものが減ってきますし、国の社会的な活性力が、だんだん衰えるということに騒がれています。

ところが、じゃあ、世界はどうなんだろう。少子高齢化か。いやそうではないのです。地球的規模で考えてみますと、実は、世界の人口は増え続けております。世界の人口は60億を超えました。今から20年ぐらい経つと、80億ぐらいになるだろうといわれています。食糧のバランスは、どうなってくるのだろうか。途上国が次第に裕福になります。そうすると、食糧の摂り方が違ってまいります。それだけ多くの食糧を地球の上で増産しなければならないけれども、それが間に合わない。

開発途上国の、みんなの生活レベルが少しずつ上がる。そのことは人類として、大変喜ばしいことであるけれども、みんなが豊かになるときに、その食糧が少しずつ増えるときに、こんどは食糧の自給が地球の上でできなくなるかもしれないよということが提示されるわけです。今年からですか、昨年からでしたか、中国は穀物輸入国になりました。あれだけの広大な地域を持ちながら。

では次に、地球規模での環境の変化のことを考えてみましょう。温暖化現象というものはだんだん増えて、観測史上最高の温暖化が、1998年に示されたというのです。それは二酸化

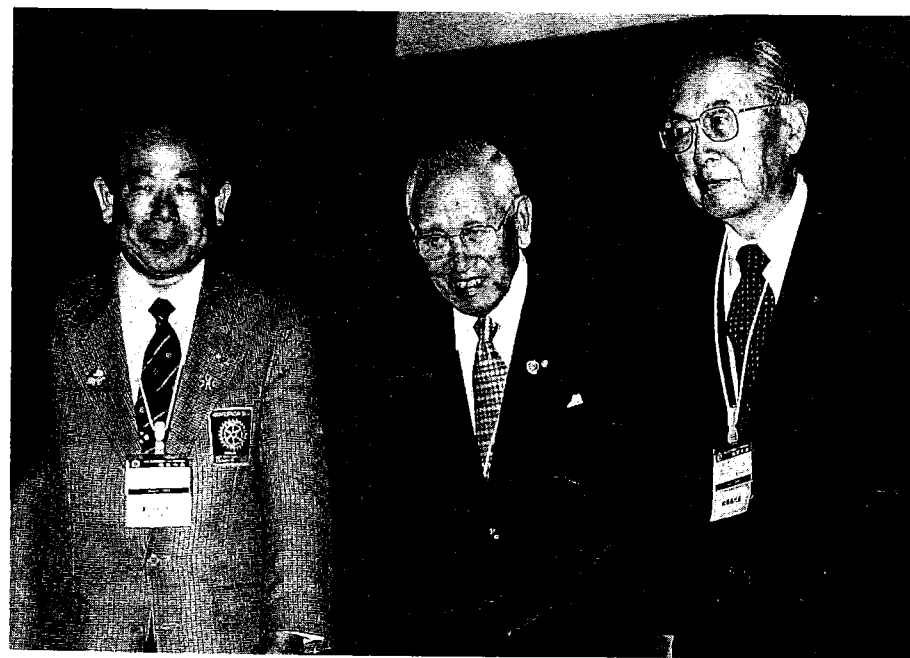
化炭素が原因物質だと言われています。簡単に言えば、排気ガスが原因物質で、だんだん暖まる。冬は暖かくて良いということと地球の中での温暖化現象が世界をどうするかということは、また別のことでありますね。

ヒマラヤの氷河が、だんだんだんだん融けてきて、氷河湖がたくさんあるんだけど、その氷河湖に水がだんだん溜って、ダムが崩壊して流れてくると、バングラデシュやあの辺に住んでいる2億の人たちが、大変大きな損害を受けるかもしれない。またこの氷河がだんだん融けてくると、雪が少なくなりまして、水量が減ってくるんです。そうすると、あの水で潤っていたインドとか、エベレストの下、あの辺の5億の人たちが、生活に困るようになるのではないだろうか。私たちはこういうことを、つい最近いろんなニュースで聞きます。

一方、地元尼崎の国道がですね、大変排気ガスが多い。そのためのぜんそくになる人がたくさんいる。あれに裁判が長い間かかりました。しかし、今までのように、「そりゃ、

自動車が走らなきゃ物資が行かないよ。周りの人たちが少しぐらい咳き込んでも仕方ないじゃないか」こう言ってお茶を濁す考え方が通らなくなったのが、今度の裁判であります。国と公団とは、その排気ガスを、差し止めるようにということでもあります。裁判所の命令でありますから、国も公団も訴訟を争わないと止められてしまいます。これ、どうしたらいいだろうな。法律の体系からいうと今までと違ったある問題を、私たちの問題にしています。

これは、一つだけではありません。東京都の知事が、税金についても、いろんな問題を提起しております。それと同じように、ディーゼルのトラックが東京都内に進入してくるのを規制する。脱硫装置をちゃんと付けた車しか入れない。脱硫装置を付けるとするならば、一つの車に100万円以上のお金がかかるから、そういうものを含んでまで、いったい東京都に物質を運ぶのか。これは経済的にはソロバンが合わない問題じゃないかということになりますけれども、実はこの宣言が一つのショッ



クを与えているということは、片一方においては、それほど人類全体として大きな問題が、今迫っているということでもあります。

ある人がこんなことを言いました。「アフリカの砂漠地帯が非常に広いんだったら、あそこに植樹をしようじゃないか」。小野クラブが中心になって、多くのクラブが、協賛もして今度の規定審議会に、砂漠に植樹をしようじゃないかということを提案しています。小野クラブの方々は一生懸命で、アフリカまで行っておられたりしております。

だいが前の話でありますけれども、実は、同じような意見が、ある人から出たんです。北極とか南極の氷を持って来て、アフリカの沖に置いて、この氷を融かして、そしてアフリカの砂漠の中に水を撒こうと。そうしたら、砂漠の中から青い芽が出てきて、砂漠化がとまるかもしれない。素晴らしい考えじゃないですか。それをやりましょうよと。そのお金は、世界中が戦争をしてる軍事費の20分の1でいいんですよ。

おそらく皆さんも賛成すると思います。そのときに、そのことを提案受けたときに、経済界の人はなるほど、そんなことができたらいいなあと。ところが、政治家に聞いた。そしたら、いい考えやな。ところで日本、いくら儲かる？ その考え方の中で、私たちは私たちの国のことだけがよければいいんだという考え方があったとするならば、私たちロータリアンとしては「ノー」と言わなければいけない。

今、私が挙げたような世界的な現象というものはいつから起こったか。近々150年から200年ほど前から、人間が経済的にどんどん発展して、私たちの欲望が、効率のよいものを求める。経済至上主義的なもの考え方、物質的に豊かになること、儲けることこそが、大きな私たちの目標だと思いはじめ

たときから、このような大きな問題が生まれてきたのであります。

それに対して、ロータリーは、1905年、生まれたときから、いったいどうやってきたのであろうか。最初は私たちは、お互いが生きることのために仲良くするということだけ考えましたけど、私たちのコミュニティが、共に豊かに生きるということのためには、私たちは与えられた職業を大事にして、それを信実に誠実に、一つの倫理基準を持って生活をするときに、私たちの新しい社会が変えられるんだということを言い続けたのが、ロータリーであると思います。ここにおいて、ロータリアンは、大きな歴史の中で、何か今なすべき責任を負わなければならないところに来てるわけです。

ピーター・ドラッカーという有名な経済学者が、私たちの身近が、どんどん変わってきている例として、昔は工場では多くの労働者が働いていた。しかし、今では、工場で自動車を組み立てている労働者はいません。いるのはロボットです。そして、工場でわずかに働いている人は、そのロボットを動かす技術者です。こういう指摘をしているのです。

科学技術が進んでまいりますと、人間が、非人間化されてくる。みんなが一つの機能のマニュアルの中に、あるいは官僚化の中の組織の中に入ってまいります。こうして、ここは、こっちの人たちがやるんだと、隣の人は知らなくていいんだということになります。そのような中で、人間的な繋がりというものが、新しい縦割りの社会の中で消えてしまう。

同じことがあります。福祉というものは何ですか？福祉というものは本当は、人の心をいたわることです。ところが、介護保険になり、あなたは介護認定がなんぼです。あなたは自立です。だから介護保険は払えませんということになってきますと、いつの間にか、

そういう温かさがなくなります。お医者さんの中に、今、問題になっているのは、医療、病気を治療することではなく、病人をどうしたら支えることができるかということです。

しかし、潮流としては、この20世紀の終わりになって、ますますそういうことが激しくなってきたときに、この人間性、疎外された人間性というものを、もう一度回復する。そのことのためにドラッカーはおもしろいことを言いました。それこそボランティアの働きなんです。他人を思いやって、自律的に、自発的に、何かの行動をするボランティア、これが、今のような過渡期の世界の中には大事なんですということを言いました。他人を思いやって、自律的に、自発的に、行動を起こすというのは誰なのですか、それがロータリアンじゃないのですか。私の国にはポリオの子どもはいませんが、アフリカのどこかに、インドのどこかにポリオの子どもがいるから、私たちはワクチン投与に行くのです。ただ単なる福祉のボランティアで、救済的なボランティアではなくて、社会的な活動が必要になってきます。ロータリー・ボランティアーズが、途上国のいろんな社会的な問題の解決のために指導者たちを送って、ボランティアとして指導していただくというプログラムを展開するのです。

実は、3年程前でありましたが、世界のYMCAが、若者を世界中から集めました。そして、今から10年、20年後、言い替えたなら、2010年から2020年に、世界はどんな状況になっているだろうかということを、みんなでディスカッションしました。ところが、それをずっと整理しますと、三つのパターンに分かれたんです。一つは、自由経済がどんどん進んで行く。自由貿易が行われる。グローバリゼーションが進んでくる。インターネットが発達する。こういうことの中で、ロシアの各

地とも中国とも貿易が自由になる。アフリカの物資もそれぞれに交換ができる。こういうふうにして、物質的に豊かになって、地球は、もっと豊かな国になるかもしれない。おそらく、私たちが願っている一つのステップはその方向にあるだろうと。これが一つのモデルとして上がってきました。

ところが、他のグループはそうじゃないのです。「いや、今とあまり変わらん」「むしろ、少し希望が悲観的な方向に行くよ」世界の人口はどんどん増えてくる。しかも、食糧はそんなに増産できない。やがて2、3年経つと、化学物質のためにかえって土地が疲弊してしまう。こうして考えてきたときに、世界人口の3分の1は、アメリカとか日本もそこで生きてれば幸いですけども、そういう国々は豊かに生き残ることができるかもしれないけども、残る3分の2の人たち、アフリカの国が、今示してるように、貧困や失業、飢餓に苛まれているだけではなくて、暴動や紛争の中にあるだろう。そして、人間は大変悲惨な状態にあるんじゃないだろうか。

3番目のグループはどうかと言いますと、今までの価値観をみんなが変えてくると。こんなことをしたら地球の中で一緒に生きて行けない。例えば、環境問題についても、排気ガスのような規制が世界的に行われるようになるかもしれない。資源もお互い同士保護されるようになるかもしれない。女性の職業が、職業に対し、もっと貢献度を増やすこと、高めることができるかもしれない。人口は、お互いに頑張って、少しずつ減少してくる。そして、世界の国々は、調和を求めて協力するようになるだろうというのがポイントでありました。

さあ、そうして出てきましたものについて、その集まった人たちが、じゃあ、いま可能性として、こんなものがあるなど言ったけども、

現実的に、2010年に、いったいこの三つの中で、どれが一番現実的だと思いますか。こう言ったら、そこに集まった80パーセントの人たちが2番と言います。それじゃあ私たちが生きてる世界は、あまり、将来に向かって望みがないなあ。じゃあ、もういっぺん聞く。諸君たちは、どういうタイプの世界にしたいと思うか。100パーセントの若者が3番なんです。それは皆さんもお気付きになる。実は、ロータリーというのは、この100パーセントの人たちの望む世界を作ろうということ、100年も前からやってるんです。

そういうふう考えるならば、実は、ロータリーというものは、今こそ、21世紀に向かって、一つの旗を掲げてあの3番目の世界のことのためには、我々はこういうこともしなければならぬ。ああいうこともしましょう。それらの責任を取ることを、私たちは、Actという言葉で言われてるわけです。その本質、それが、ほんとは大事なんだということが分かるような、そういうメンバーが増えるということが大事なのであります。

2002年～2003年度から始まるわけでありますけれども、国際問題研究のためのロータリーセンターを作ると言って、世界の各地にある大学の中から7つを選びました。日本では国際キリスト教大学が選ばれました。平和の問題、世界の問題を考えるための若者を1校から10人。世界中で70人の人たちが集まって、我々が何をいったい提言したらいいかということを考えるんです。これは、まさに、21世紀におけるそういう時代の変化と、大事なものを取り上げようという問題であります。

もう一つ、ぜひ、覚えておいていただきたいので、本のご紹介だけでもしておきたいと思います。サムエル・ハンチントンという国際政治学者が、「文明の衝突」という本を書きました。21世紀というのは、今までの冷戦

時代と違って新しい文明が衝突していく。そう言えば、現に、コンボ、チェチェン、東チモールであっても、いろんな意味においては、宗教の対立などが行われてる、文明の衝突が起こってるということはお分かりだろうと思います。また最近、「21世紀の日本」という本を、同じハンチントンが書いてるんです。彼はその中で世界全体を七つか八つぐらいの文明圏に分けます。イスラム圏、西欧諸国、中国、アフリカ、ラテンアメリカ、とか。ところが日本だけは、固有で特別だ。小さいかもしれないけど、日本は、約1000年の文明を持っている。影響を、中国から受けたかもしれないけれども、1000年の間に日本は日本の文明を作った。そこまではいいんです。ただし、作ったときに、よその文明と衝突したときに、日本は、日本文明という中で育て、他とどこも仲良くなれない。中国とも仲良くなれないし、アメリカとも仲良くなれないんだ。その意味においては孤立化してくる。今までは経済的にうまくいったからいいけれども、これからは世界と一緒にどうするかということを考えるべきだ。孤立化する日本が、この21世紀の中に目立ってくる。日本は今までのように尊重されなくなるかもしれないという1行があるんです。

今、ロータリアンとして考えたときに、世界の中の大切な役割を、私たちは果たすために何をしたらいいのか。ハンチントンは、逆に言うと、日本は孤立化すると同時に、方法によっては、世界のキーカントリーとして、いろんなことができますよというサジェスションをしています。日本のロータリーが考えなきゃならない問題が、そこにサジェストされている、と、こんふうに思います。